

ふりがな 氏 名	いしだ かずと 石田 和人	職 名	教授
取得学位	博士(医学)	学会での受賞歴	第43回日本理学療法学会大会優秀賞(平成21年5月)
主な担当科目	リハビリテーション概論、見学実習、基礎ゼミナール		
所属学会	日本理学療法士協会、日本基礎理学療法学会(理事:令和2年6月～現在に至る)、日本神経理学療法学会、NPO 法人愛知県理学療法学会(理事長:平成31年4月～現在に至る)、日本神経科学学会、北米神経科学学会、日本生理学会、脳機能とリハビリテーション研究会、日本マイオセラピー協会、コメディカル機能形態学会		

◆ 教育業績

事 項	実 施 年月(日)	概 要
アクティブラーニングを用いた授業	平成31年4月～現在に至る	学生主導による演習、iPad を用いた取りまとめと発表などを取り入れ、アクティブラーニングを推進した「神経理学療法学」(豊橋創造大学)。
ウェブ環境を活用した遠隔授業の実施	令和2年4月～現在に至る	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、ウェブ環境を活用した遠隔授業の方法を確立し、教材資料の提示および課題設定などを工夫し実践した「神経理学療法学」「発達障害理学療法学」「地域健康支援学」(豊橋創造大学)。

◆ 研究業績

区 分	著書・論文・発表テーマ・作品・演目などの名称	単・共	発行・発表年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏会の名称(会場名)	備 考
著 書	リハビリテーション神経科学 <ISBN 978-4-7583-1937-9>	共	平成31年3月30日	マジカルビュー社	監修: 玉木彰 編集: 鈴木俊明、大西秀明 著者: 石田和人 全355ページ中、Part 1 基礎編 2. 神経可塑性(p.18-35)を執筆
論 文	Motor Skills Training Enhances α -Amino-3-hydroxy-5-methyl-4-isoxazolepropionic Acid Receptor Subunit mRNA Expression in the Ipsilateral Sensorimotor Cortex and Striatum of Rats Following Intracerebral Hemorrhage.	共	平成29年10月	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases 26	Keigo Tamakoshi, Kazuto Ishida, Kentaro Kawanaka, Yasuyuki Takamatsu, Hiroyuki Tamaki. p. 2232-2239
	Periodontitis induced by bacterial infection exacerbates features of Alzheimer's disease in transgenic mice.	共	平成29年11月	Aging and Mechanisms of Disease 3	Naoyuki Ishida, Yuichi Ishihara, Kazuto Ishida, Hiroyuki Tada, Yoshiko Funaki-Kato, Makoto Hagiwara, Taslima Ferdous,

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年 月 (日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
	Auditory stimulus has a larger effect on anticipatory postural adjustments in older than young adults during choice step reaction.	共	平成 29 年 12 月	Eur J Appl Physiol . 117(12)	Mohammad Abdullah, Akio Mitani, Makoto Michikawa, Kenji Matsushita. 15; doi: 10.1038/s41514-017-0015-x
	Coordination of plantar flexor muscles during bipedal and unipedal stances in young and elderly adults.	共	平成 30 年 5 月	Exp Brain Res. 236	Tatsunori Watanabe, Kotaro Saito, <u>Kazuto Ishida</u> , Shigeo Tanabe, Ippei Nojima. p.1229-1239
	Effect of auditory stimulus on executive function and execution time during cognitively demanding stepping task in patients with Parkinson's disease.	共	平成 30 年 6 月	Neurosci Lett. 674	Tatsunori Watanabe, Kotaro Saito, <u>Kazuto Ishida</u> , Shigeo Tanabe, Mitsuya Horiba, Shogo Itamoto, Yoshino Ueki, Ikuo Wada, Ippei Nojima. p.101-105
	Age-Related Declines in the Ability to Modulate Common Input to Bilateral and Unilateral Plantar Flexors During Forward Postural Lean.	共	平成 30 年 12 月	Front Hum Neurosci.	Tatsunori Watanabe, Kotaro Saito, <u>Kazuto Ishida</u> , Shigeo Tanabe and Ippei Nojima. doi: 10.3389/fnhum.2018.00254
	Behavioral effect of short- and long-term exercise on motor functional recovery after intracerebral hemorrhage in rats.	共	平成 31 年 1 月	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases 27	Keigo Tamakoshi, <u>Kazuto Ishida</u> , Keishi Hayao, Hideaki Takahashi, Hiroyuki Tamaki. p.3630-3635
	中枢神経障害に関する基礎的研究の動向と臨床への応用.	単	令和 3 年 10 月	理学療法学 46 巻 1 号	理学療法トピックス シリーズ「基礎研究の動向と臨床への応用」連載 第4回 p. 59-64
	Repetitive training of contralateral limb through reconsolidation strengthens motor skills.	共	令和 3 年 10 月	Neurosci Lett	Tomoya Gyoda, <u>Kazuto Ishida</u> , Tatsunori Watanabe, Ippei Nojima. doi: 10.1016/j.neulet.2021.136306.
学会発表	Effects of an auditory stimulus on postural control during choice stepping reactions in the elderly.	共	平成 29 年 5 月 13 日	第 52 回日本理学療法学術大会(幕張)	Tatsunori Watanabe, Kotaro Saito, Machiko Kageyama, Emi Sugiura, <u>Kazuto Ishida</u> , Ippei Nojima
	脳梗塞発症前の運動がもたらす発	共	平成 29 年 5	第 52 回日本理学療法学	杉山佳隆、 <u>石田和人</u>

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
学会発表	症後障害軽減効果に関する検討.		月 13 日	術大会(幕張)	
	脳出血モデルラットにおけるトレッドミル走行の実施時期の違いが運動機能回復および組織傷害に与える影響.	共	平成 29 年 5 月 13 日	第 52 回日本理学療法学会術大会(幕張)	玉越敬悟、 <u>石田和人</u> 、高松泰行、中川弘毅、早尾啓志、田巻弘之
	フォースプレートを用いたラットの長時間行動計測システム.	共	平成 29 年 5 月 13 日	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会 2017(Robomech2017), 2A2-P01(福島)	山田真生、坂口正道、 <u>石田和人</u>
	動物実験と理学療法研究.	共	平成 29 年 8 月 19 日	第 2 回基礎理学療法学会「夏の学校」特別講演.(長崎)	
	脳出血モデルラットにおける早期トレッドミル走行は大脳皮質の萎縮を抑制し機能改善を促進する.	共	平成 29 年 8 月 20 日	第 24 回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会(千葉)	玉越敬悟、 <u>石田和人</u> 、早尾啓志、高橋英明、田巻弘之
	脳出血後の運動機能障害は脳梗塞と比較して自然回復が早い -モデル動物を用いた検証-.	共	平成 29 年 8 月 20 日	第 24 回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会(千葉)	玉越敬悟、 <u>石田和人</u> 、早尾啓志、高橋英明、田巻弘之
	脳出血に対するトレッドミル運動の運動時間による効果の検討.	共	平成 29 年 9 月 2 日	コ・メディカル形態機能学会 第 16 回学術集会(名古屋)	行田智哉、大場頌子、上西祐貴、若山聡夢、 <u>石田和人</u>
	脳出血後の運動スキル訓練が運動機能および神経細胞に与える影響.	共	平成 29 年 9 月 2 日	コ・メディカル形態機能学会 第 16 回学術集会(名古屋)	玉越敬悟、 <u>石田和人</u> 、早尾啓志、高橋英明、田巻弘之
	Anxiety/depressive-like behaviors without the change of the HPA axis by mild stress can be improved treadmill exercise in rats.	共	平成 29 年 11 月 1 日	Neuroscience 2017 (Washington, DC)	<u>Kazuto Ishida</u> , Kohei Koike, Akiko Maruyama, Tomoya Gyoda, Shoko Oba, Yuki Uenishi, Satomu Wakayama and Yoshitaka Sugiyama
	Effect of early and late treadmill training on motor functional recovery and the cerebral cortex after hemorrhage in rats.	共	平成 29 年 11 月 1 日	Neuroscience 2017 (Washington, DC)	Keigo Tamakoshi, <u>Kazuto Ishida</u> , Keishi Hayao, Hideaki Takahashi, Hiroyuki Tamaki
	Anxiety/depressive-like behaviors by mild stress can be improved by treadmill exercise in rats without the	共	平成 30 年 3 月 30 日	第 95 回日本生理学会大会(高松) 大会企画シンポジウム	<u>Kazuto Ishida</u> , Kohei Koike, Akiko Maruyama, Yuki Uenishi, Satomu Wakayama, Yoshitaka

区分	著書・論文・発表テーマ・作品・演目などの名称	単・共	発行・発表年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏会の名称(会場名)	備考
学会発表	change of HPA axis. (ラットの軽度水泳ストレスによる不安・抑うつ様行動はトレッドミル運動により改善する).			「脳機能改善を目指す運動療法の分子メカニズム」The understanding of molecular mechanisms underlying exercise therapy for the future of neurorehabilitation”.	Sugiyama
	Effect of very early exercise on motor functional recovery and brain damage after hemorrhage in rats. (脳出血後の超早期における運動介入が機能回復および脳損傷に与える影響).	共	平成30年3月30日	第95回日本生理学会大会(高松)	Keigo Tamakoshi, <u>Kazuto Ishida</u> , Keishi Hayao, Hideaki Takahashi, Hiroyuki Tamaki
	Early rehabilitation inhibits inflammation and aids motor function recovery after intracerebral hemorrhage in rats.	共	平成30年7月27日	第41回日本神経科学大会(神戸)	Keigo Tamakoshi, <u>Kazuto Ishida</u> , Keishi Hayao, Hideaki Takahashi, Hiroyuki Tamaki
	脳卒中リハビリテーションの開始時期の違いが運動機能障害および大脳皮質感覚運動野に及ぼす影響.	共	平成30年8月19日	第25回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会(千葉)	玉越敬悟、 <u>石田和人</u> 、高橋英明、早尾啓志、田巻弘之
	脳梗塞後および脳出血後の運動介入が運動機能改善および組織傷害に与える効果の比較検証.	共	平成30年12月15日	第23回日本基礎理学療法学会(京都)	玉越敬悟、 <u>石田和人</u> 、高橋英明、早尾啓志、田巻弘之
	リハビリ室の環境でバランス能力を評価してもよいのか、床面の状況、履物による影響.	共	平成30年10月27日	第34回東海北陸理学療法学術大会(津)	中根大樹、田中望、大谷陽介、永田峻、 <u>石田和人</u>
	脳卒中リハビリテーションに向けた基礎研究.	単	平成31年3月10日	豊橋リハビリテーションミニ連絡会(豊橋)	
	膝関節伸展位での踵接地を行うことで効果的に Gait Solution 継手付き短下肢装具を使用した脳卒中患者の一例.	共	平成31年3月17日	第28回愛知県理学療法学術大会(名古屋)	日置知那、渡邊大志、谷垣真哉、 <u>石田和人</u>
	中枢神経障害のリハビリテーションを動物実験により探求する.	単	令和1年5月8日	豊橋リハビリテーション連絡会(豊橋)	
	こころとからだの神経科学健康論.	単	令和2年7月19日	日本マイオセラピー協会令和2年研修会(東京)	

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年 月 (日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
学会発表	足底への荷重感覚訓練を工夫した ことにより起立動作が改善した一症 例. 理学療法の視点からみた心の健康 管理について.	共	令和2年8 月8日	第29回愛知県理学療法 学術大会(名古屋)	阿部真也、小島雄也、菅沼淳 一、 <u>石田和人</u>
		単	令和2年10 月21日	第432回東三河産学官 交流サロン(豊橋)	
そ の 他 (報告書)	高齢者の健康体操支援用簡易 MoBI ログシステムの開発(29-23) 在宅での動的バランス評価の妥当 性に関する検討.	単	平成31年3 月	長寿医療研究開発費 平成30年度 分担研究 報告3	